

研究タイトル：

統計的に探る社寺建築のプロトタイプの地域変異



氏名：	谷中俊裕 / TANINAKA Toshihiro	E-mail：	t_tani@anan-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(言語学)
所属学会・協会：	日本言語学会、日本英語学会、日本城郭史学会、阿波のまちなみ研究会		
キーワード：	プロトタイプ理論、地域変異、社寺建築、太鼓楼、拝殿		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・古建築の様式調査 ・町おこしのための建築遺産発掘 ・外国語版観光案内の作成 		

研究内容： 各地の太鼓楼と神社拝殿の実例から地域ごとのプロトタイプを抽出し、様式の変異を記述・分析する

プロトタイプは、言語学、認知科学で盛んに援用される概念であるが、森羅万象に応用可能である。特に、個々の事例が変異に富み、それら全てに共通する特徴を抽出するのが難しい事象の記述や分析に有効である。筆者は、このプロトタイプの概念を日本の古建築の様式へ応用することを試みている。古建築は、現代建築に比べると一定の様式にのっとって建てられている傾向が強いとはいうものの、その様式は、例外的な事例や地域的な変異があり、全体像を把握するのは非常に難しい。プロトタイプ理論の下では、地域変異は、地域によるプロトタイプの相違、つまり、プロトタイプが有する示唆的特徴の一部が地域によって異なることを意味し、例外的な事例は、プロトタイプからの逸脱度合いの大きい事例として捉えられる。

筆者が現在特に注目して調査しているのは、社寺建築、特に浄土真宗の寺院に散見される太鼓楼である。太鼓楼については、建築史や建築様式の分野でも体系的先行研究がほとんどなく、また、全国の事例が 500 件以内と少なく、事象の全体像の把握の試みとしては格好である。下図のような城郭の隅櫓を彷彿させる太鼓楼(茨木市)と、本堂と庫裏の連結廊上の太鼓楼(氷見市)ではほとんど共通点がないように見える。しかし、プロトタイプ理論の下では、これらも含む事例を、太鼓楼の様式の全体像の中で、プロトタイプの地域変異も考慮しながら、全てアドホックでないものとして捉えられると期待される。

また、太鼓楼よりもはるかに事例の多い事象として、神社の拝殿建築にも注目している。拝殿も、本殿に比して改築が頻繁に行われ文化財的価値が低いとみなされることもあり、様式の研究が遅れている。しかし、筆者は、屋根形式、桁行梁間の比のような基本的な素性においてさえ、十分地域的な特色があると実感している。下図のような寄棟形式の拝殿(南あわじ市)や、ほぼ正方形平面の拝殿(鹿児島市)は、筆者の地元の徳島県では想定しにくい。

建築事例のプロトタイプを全国の全ての地域について抽出することは遠大な計画であるが、複数の地域のプロトタイプを比較するだけでも十分意義があると考えている。できる限り広範囲に研究を拡げるため、広く共同研究者を求めている。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	